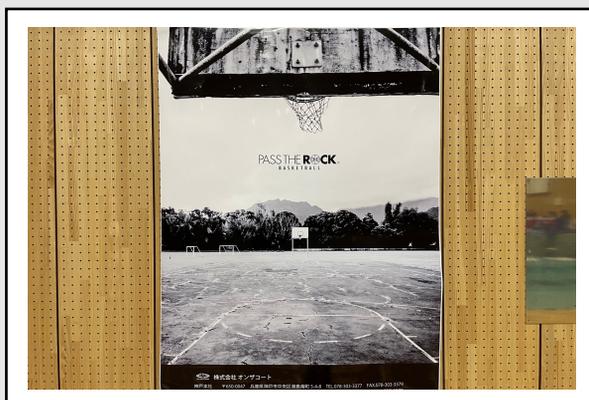


# 集客施策

集客施策	ハーフタイムイベントおよびご当地キャラの招聘
詳細	ハーフタイムのイベントとしてフリースロー大会を実施した。フリースロー大会への参加者は、ハーフタイムの最初に出場選手がチケットの半券をその場で抽選してもらうことで選出した。 また、鹿屋市のご当地キャラクターである「かのやカンパチロウ」を招聘し、試合開始前に応援時の振り付けの模範の演技をしてもらった。さらに、ハーフタイムにはカンパチダンスを披露してもらうことで、会場をより一層盛り上げた。



集客施策	協賛スポンサーの獲得
詳細	スポンサーとして「株式会社オンザコート」に物品の協賛をもらうことで、上記のフリースロー大会の参加者に景品をプレゼントした。なお、試合を最後まで見てもらうために、試合の最後に選手からプレゼントすることとした。



# 成果と課題

## 成果

鹿屋市民にとって鹿屋体育大学は、同じ鹿屋市内で共存しているながら遠い存在であることが言われており、重要な課題であると考えられる。そこで本イベントは、コンセプトの設定に時間をかけ、主題を「未来を共に観に行こう！ — Basketball Futures Match 2023 —」とし、副題を「九州No.1女子バスケットボール部の日本経済大学へ鹿屋体育大学が挑む一戦！仲間と、家族と、地域と共に踏み出す第一歩を見逃すな!!」と設定した。これは、共に地域の課題や大学の壁に向かっていくことを意図している。そのためのツールとして、同じTシャツを着て、ホームゲームの会場を鹿屋カラーのブルーに染めるよう問いかけることとした。

その結果、305名の観戦者が会場に足を運びそのうちの約6割が鹿屋市民であった。しかしながら、当日の会場で実施されたアンケート調査の結果では、過去の試合観戦経験について、85%以上が鹿屋体育大学女子バスケットボール部の試合を見たことがなく、75%以上が鹿屋体育大学のスポーツ全般を見たことがないという結果であった。これは、鹿屋体育大学に関係性の薄い鹿屋市民が来場したと言え、鹿屋市民の新規顧客の獲得に向けて、大きな一歩である。そして、本イベントをフックに今後の鹿屋体育大学の大学スポーツが発展するためには、このホームゲームに来場した鹿屋市民をリピーターとして継続的に大学に足を運んでもらい、鹿屋体育大学のファンになってもらう仕組みづくりを考えていかなければならない。今後、鹿屋市民と鹿屋体育大学がより一層の信頼関係を築き、人口減少や過疎化などの地域課題の解決に貢献していくと共に、大学にとっても良い関係を構築していきたいと考える。

## 課題

本イベントにおける課題を以下4点にまとめて述べることとする。

### ①組織図

→本イベントにおける契約の締結が約1か月前であったことから、組織として準備を進めることが難しい状況であった。実行委員会は立ち上げたものの、役割は不明瞭で負担感は大きく異なることになったと考えられる。さらに、実行委員会には女子バスケットボール部の監督、マネージャーとして主務が入ることとなったが、実行委員会と女子バスケットボール部の連携が取れておらず、対戦相手、競技、そして広報活動などに影響があった。これらは、そもそもの人材不足であることは否めないが、今後は、既存の人的、物的資源でホームゲームを盛り上げていくための役割分担や設計をしていくことが求められる。

### ②大学の規制

→本イベントの企画を進める上で金銭的に余裕がなく、チケットの有料化をする予定であった。しかしながら、鹿屋体育大学の規制が厳しく（時間的問題もある）、無料化をせざるを得なくなる状況となった。さらに、金銭的なスポーツスポンサーシップにも制限がかけられ、物品提供としての協賛に留まり、営業活動が制限されることとなった。今後、大学スポーツの発展に向けて、スポーツビジネスの観点は重要であり、ホームゲームを開催する大学の理解も鍵となるのではないだろうか。

### ③新型コロナウイルス感染症対策

→新型コロナウイルスの感染症対策として、鹿屋体育大学では1週間前からの体調管理が必要であり、当日のオペレーションとして多くの人員と労力が必要となった。さらに、会場の座席間隔や声出し応援についても感染対策を講じることが必要であり、観客席や観客動員数に影響を及ぼした。

### ④外部環境の把握

→当日は鹿屋市の別の会場でB3リーグの鹿児島レブナイズの試合が同時刻のTIP OFFで行われていた。加えて、鹿屋市民は無料というイベントであり、競合してしまったことが考えられる。また、鹿児島県中学校体育連盟が主催のバスケットボール競技も行われていたことから、観客動員数に影響を及ぼした。今後は外部環境にも目を向け、日時の設定をしていくことが求められる。

# 会場の様子





# 観戦者調査の結果

## ■ 調査方法

質問紙調査とWEBアンケートツールを使用した  
オンライン調査

## ■ 調査対象

「Basketball Futures Match 2023 鹿屋体育大  
学対日本経済大学」観戦者

## ■ 調査日時

2023年1月29日

## ■ 調査場所

鹿屋体育大学主体育室

## ■ 回収数

n = 243 (対面回収180+オンライン回収63)

表1.性別 (Q1-1)

n=214

男性	36.4%
女性	63.6%
合計	100.0%

表2.年齢 (Q1-2)

n=213

17歳以下	18.3%
18～22歳	16.4%
23～29歳	6.1%
30～39歳	13.6%
40～49歳	18.8%
50～59歳	12.7%
60歳以上	14.1%
合計	100.0%

表3.職業 (Q1-4)

n=214

公務員	13.1%
会社・団体役員	7.5%
正社員・職員	11.7%
契約・派遣・アルバイト	5.1%
自営・自由業	7.0%
中高生	14.0%
大学・大学院生	15.9%
専業主婦（夫）	7.0%
その他	9.8%
無職	8.9%
合計	100.0%

# 観戦者調査の結果

表4.婚姻関係 (Q1-5) n=211	
独身	44.1%
既婚	55.9%
合計	100.0%

表5.子供の有無 (Q1-6) n=210	
いる	54.8%
いない	45.2%
合計	100.0%

表6.自由裁量所得 (Q1-7) n = 199	
平均	34,395円

表7.ホームチームとの関係性 (質問紙Q1-8) ※複数回答 n=149	
卒業生	14.1%
在学生	16.8%
教職員	4.0%
家族・親戚が卒業または在学	5.4%
友人・知人が卒業または在学	5.4%
大学の周辺住民	30.2%
関わりはない	34.9%

表8.ホームチームとの関係性 (オンラインQ8) n = 63	
卒業生	0.0%
在学生	28.6%
教職員	14.3%
家族・親戚が卒業または在学	3.2%
友人・知人が卒業または在学	4.8%
大学の周辺住民	15.9%
関わりはない	33.3%
合計	100.0%

表9.観戦経験 (現地観戦) (Q2)	ある	ない	合計
過去1年間のスポーツ全般の観戦経験 (n = 214)	56.5%	43.5%	100.0%
過去1年間の大学スポーツ全般の観戦経験 (n = 213)	26.3%	73.7%	100.0%
過去1年間の所属大学のスポーツ全般の観戦経験 (n = 213)	23.0%	77.0%	100.0%
過去1年間の所属大学当該部の観戦経験 (n = 213)	12.7%	87.3%	100.0%

# 観戦者調査の結果

表10.視聴経験（テレビ・インターネット）（Q2）	ある	ない	合計
過去1年間のスポーツ全般の視聴経験（n = 214）	73.4%	26.6%	100.0%
過去1年間の大学スポーツ全般の視聴経験（n = 213）	49.8%	50.2%	100.0%
過去1年間の所属大学のスポーツ全般の視聴経験（n = 214）	31.8%	68.2%	100.0%
過去1年間の所属大学当該部の視聴経験（n = 214）	28.0%	72.0%	100.0%

表11.同伴者数（Q3-1）	n=211
1人	14.2%
2人	29.4%
3人	17.5%
4人	12.8%
5人以上	26.1%
合計	100.0%

表13.会場までの所要時間（Q3-3）	n=204
～30分	76.5%
31～60分	8.8%
61～90分	2.5%
91分～	12.3%
合計	100.0%

表12.同伴者（Q3-2） ※複数回答	n=212
家族	46.7%
ひとり	13.2%
友人〈恋人等含む〉	30.2%
その他	14.6%

表14.試合情報入手場所（Q3-4）※複数回答	n=212
大学 HP／ SNS	23.6%
競技団体(学連等) HP／ SNS	16.5%
部活 HP／ SNS	17.0%
学内掲示・ポスター	10.8%
口コミ（友人・知人・家族）	29.7%
OB・OG連絡網	9.4%
学外掲示 （駅、バス、電車内など）	0.5%
その他	10.4%

# 観戦者調査の結果

表15.観戦の動機やきっかけ (Q4)	大いにあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	まったくあてはまらない	合計
今日の試合で応援しているチームの成績が良いから (n=211)	11.8%	25.6%	42.7%	8.5%	11.4%	100.0%
友人や家族に誘われたから (n=210)	38.6%	31.0%	15.2%	6.2%	9.0%	100.0%
地元の大学チームだから (n=214)	43.5%	33.2%	12.1%	4.7%	6.5%	100.0%
スケジュールの都合がよかったから (n=214)	36.0%	43.9%	12.6%	3.3%	4.2%	100.0%
好きな大学を応援したいから (n=214)	35.6%	28.5%	30.8%	1.4%	3.7%	100.0%
好きなチームを応援したいから (n=214)	32.2%	28.0%	32.8%	2.3%	4.7%	100.0%
好きな選手を応援したいから (n=214)	22.0%	23.4%	39.6%	7.5%	7.5%	100.0%
バスケットボール観戦が好きだから (n=214)	43.9%	30.8%	21.5%	1.9%	1.9%	100.0%
周囲で盛んに話題になっているから (n=214)	19.6%	28.0%	40.3%	5.6%	6.5%	100.0%
チケットをもらったから (n=210)	18.1%	21.0%	29.0%	13.3%	18.6%	100.0%
今日の対戦相手との試合が魅力的だから (n=213)	23.5%	23.0%	42.7%	6.1%	4.7%	100.0%
応援している大学が地域に貢献しているから (n=214)	30.4%	29.9%	30.8%	4.2%	4.7%	100.0%
レジャーとして楽しいから (n=213)	30.0%	35.8%	28.6%	0.9%	4.7%	100.0%
試合以外でのイベント・グルメ企画が楽しそうだから (n=214)	13.6%	17.8%	43.8%	11.2%	13.6%	100.0%
大学スポーツが好きだから (n=214)	21.5%	29.9%	36.5%	6.5%	5.6%	100.0%
出身(所属)大学の試合だから (n=214)	14.5%	12.6%	26.6%	11.7%	34.6%	100.0%

## 観戦者調査の結果

表16.本日の試合で「最も応援しているチーム」 (Q5)	n=214
ホームチーム	75.2%
アウェーチーム	6.5%
本日の試合で応援しているチームはない	18.2%
合計	100.0%

表17.応援しているチームについて (Q6,Q7)	大いにあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	まったくあてはまらない	合計
あなたは自分のことを真の「チーム」のファンだと思う (n=186)	10.2%	26.3%	39.9%	16.1%	7.5%	100.0%
もし「チーム」のファンを止めなければならぬとしたら、あなたは喪失感を味わうだろう (n=185)	11.9%	22.2%	44.9%	12.4%	8.6%	100.0%
「チーム」のファンであることは、あなたにとってとても重要である (n=183)	13.7%	33.3%	36.6%	9.8%	6.6%	100.0%
私は、応援しているチームの大学に強い結びつきを感じている (n=184)	12.5%	28.3%	45.6%	7.1%	6.5%	100.0%
私にとって、応援しているチームの大学との関係は重要である (n=184)	13.6%	29.3%	43.0%	8.7%	5.4%	100.0%
私は、応援しているチームの大学に思い入れがある (n=185)	18.4%	28.1%	39.5%	7.0%	7.0%	100.0%